



2026年3月期

第3四半期 決算説明資料

デンヨー株式会社

証券コード 6517
東京証券取引所 プライム市場



I. 2026年3月期 第3四半期 決算概要

II. 2026年3月期 通期見通し



I. 2026年3月期
第3四半期 決算概要



ポイント

- ・連結売上高は、主に国内レンタル会社向けの反動減もあり、前年同期を下回る。
- ・利益は、売上高の減少や減価償却費等の増加により、前年同期を下回る。

(単位:百万円)

	2025年3月期 第3四半期		2026年3月期 第3四半期		前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
連結売上高	52,524	100%	51,286	100%	△1,237	△ 2.4%
営業利益	5,301	10.1%	4,799	9.4%	△ 501	△ 9.5%
経常利益	5,825	11.1%	5,390	10.5%	△ 435	△ 7.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,047	7.7%	3,547	6.9%	△ 499	△ 12.3%
設備投資	5,762		1,080		△ 4,682	
減価償却費	917		1,407		490	
1株当たり四半期純利益	196.05円		173.44円		△ 22.61円	
ROE	7.3%	年換算	6.0%	年換算		

概況

1. 発電機は 1,459百万円(3.4%)の減少。
2. 溶接機は 257百万円(7.6%)の増加。
3. コンプレッサは 154百万円(21.8%)の減少。

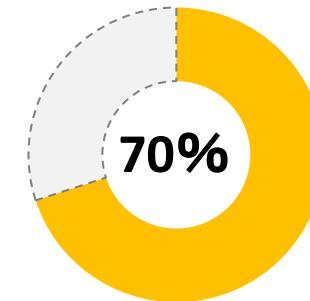
(単位:百万円)

		2025年3月期 第3四半期		2026年3月期 第3四半期		前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
製品別	連結売上高	52,524	100%	51,286	100%	△ 1,237	△ 2.4%
	発電機	43,491	82.8%	42,032	82.0%	△ 1,459	△ 3.4%
	溶接機	3,381	6.4%	3,638	7.1%	257	7.6%
	コンプレッサ	708	1.3%	553	1.1%	△ 154	△ 21.8%
	その他	4,943	9.4%	5,062	9.9%	119	2.4%



	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	前年同期比 増減率
発電機	43,491百万円	42,032百万円	△ 3.4%

- 国内は、レンタル会社向け可搬形発電機の出荷が減少。
非常用発電機の出荷は堅調。
- 海外は、米国市場向けが回復傾向に転じる。



可搬形エンジン発電機の国内シェア

※当社調べによる(5年平均)

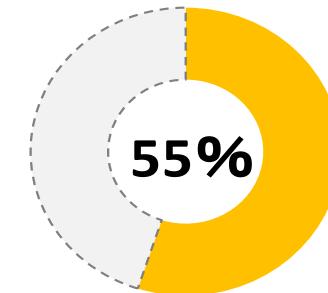
静音発電機
マーリエ運転データ記録機能付
発電機

1kVAから1100kVAまでのエンジン発電機を製造

- 可搬形発電機
建設現場、土木工事、災害復旧・復興などの動力源
- 非常用発電機(定置形)
防災設備やオフィスなどのバックアップ電源
- 電源車など

	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	前年同期比 増減率
溶接機	3,381百万円	3,638百万円	7.6%

- 主力の小型機や海外向け大型機が増加。



エンジン溶接機の国内シェア

※当社調べによる(5年平均)



炭酸ガス溶接機

屋外作業の溶接機として当社が日本で初めて開発
軽量鉄骨溶接用の135Aから重量鉄骨溶接用の500Aエンジン溶接機、
およびTIG溶接機、炭酸ガス溶接機など
●ビルやマンション、橋梁などの鉄骨構造物の溶接
●石油備蓄タンク、パイプラインなどの重要構造物の溶接

	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	前年同期比 増減率
コンプレッサ	708百万円	553百万円	△ 21.8%

- 国内向けエンジンコンプレッサが減少。



エンジンコンプレッサの国内シェア
※当社調べによる(5年平均)



エンジンコンプレッサ



モータコンプレッサ

吐出空気量1.7m³/minから45.3m³/minまで製造
 ●道路工事のはつり作業、地盤改良工事
 ●山岳道路の土砂崩れ防止のモルタル吹き付け工事
 ●スキー場の人工降雪機用など

	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	前年同期比 増減率
その他の売上	4,943百万円	5,062百万円	2.4%

- ・非常用発電機のメンテナンス売上や海外向けの部品売上が増加。

その他の売上

- 高所作業車
- 負荷試験装置
- 部品売上
- 中古機や仕入商品売上
- 修理売上など



高所作業車

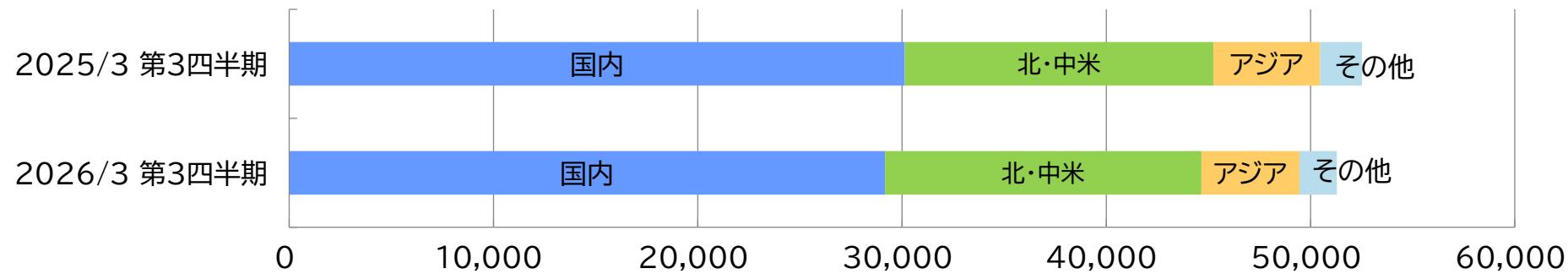


負荷試験装置



(単位:百万円)

	2025年3月期 第3四半期		2026年3月期 第3四半期		前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
連結売上高	52,524	100%	51,286	100%	△ 1,237	△ 2.4%
国内売上高	30,143	57.4%	29,166	56.9%	△ 977	△ 3.2%
海外売上高	22,380	42.6%	22,120	43.1%	△ 260	△ 1.2%
地域別	アメリカ	15,098	28.7%	15,490	30.2%	392
	アジア	5,229	10.0%	4,804	9.4%	△ 424
	その他	2,053	3.9%	1,826	3.6%	△ 227



営業利益減

売上高の減少、減価償却費等の増加により減少。

(単位:百万円)

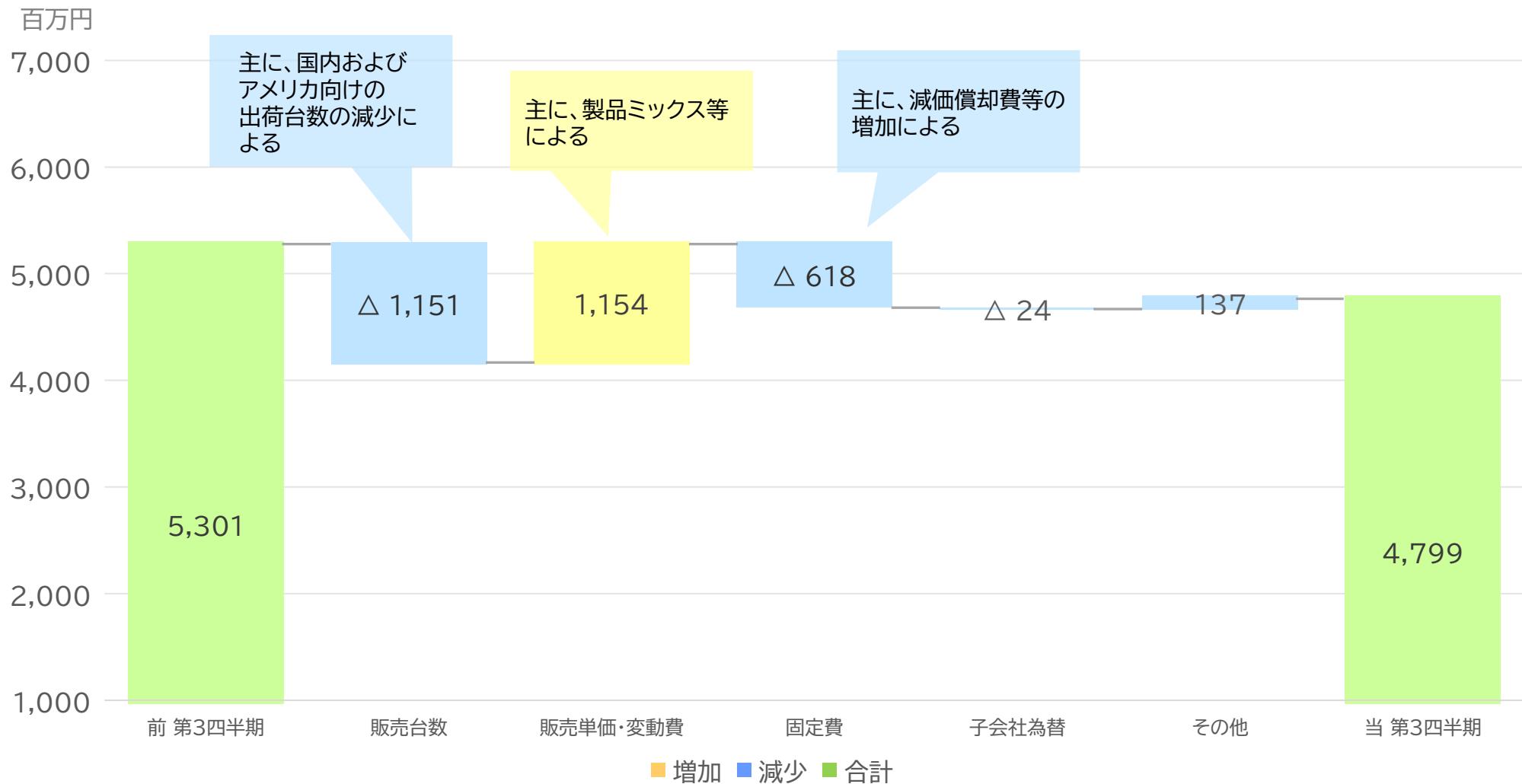
	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	前年同期比 増減
営業利益	5,301	4,799	△ 501
営業利益率	10.1%	9.4%	△ 0.7 ポイント

	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	前年同期比 増減
売上総利益率	24.1%	24.3%	0.2 ポイント
売上高販管費比率	14.0%	14.9%	0.9 ポイント
売上高営業利益率	10.1%	9.4%	△ 0.7 ポイント



営業利益増減の要因分析(要因別)

Denyo



II. 2026年3月期の見通し



ポイント

- ・期初予想を据え置く。
- ・為替レートは、145円/ドルを想定。

(単位:百万円)

	2025年3月期		2026年3月期(予)		前期比 増減額	前期比 増減率
連 結 売 上 高	70,753	100%	72,000	100%	1,247	1.8%
営 業 利 益	7,393	10.4%	7,300	10.1%	△ 93	△ 1.3%
経 常 利 益	8,002	11.3%	7,700	10.7%	△ 302	△ 3.8%
親会社株主に帰属する当期純利益	5,647	8.0%	5,100	7.1%	△ 547	△ 9.7%
設 備 投 資	6,218	—	2,400	—	△ 3,818	
減 価 償 却 費	1,397	—	1,850	—	453	
1株当たり当期純利益	274.02円	—	249.29円	—	△ 24.73円	
R O E	7.5%		* 6.8%			
1株当たり配当金(円)	75.0円		100.0円			

*自己資本は前期末の金額で計算

概況

- ・国内は、建設および防災・減災関連の需要が堅調に推移するものと予想。
- ・海外は、アメリカ市場の回復を見込む。

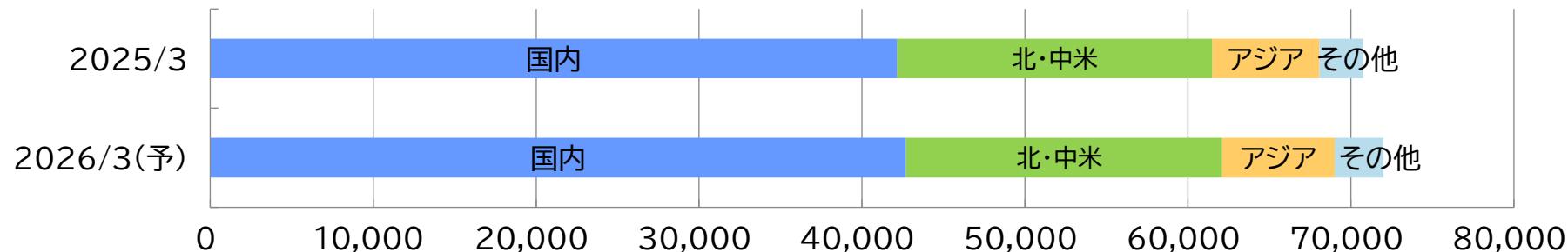
(単位:百万円)

		2025年3月期		2026年3月期(予)		前期比 増減額	前期比 増減率
連結売上高		70,753	100%	72,000	100%	1,247	1.8%
製品別	発電機	58,539	82.7%	59,500	82.6%	961	1.6%
	溶接機	4,645	6.6%	4,850	6.7%	205	4.4%
	コンプ [®] レッサ	903	1.3%	950	1.3%	47	5.2%
	その他	6,666	9.4%	6,700	9.3%	34	0.5%



(単位:百万円)

	2025年3月期		2026年3月期(予)		前期比 増減額	前期比 増減率	
連結売上高	70,753	100%	72,000	100%	1,247	1.8%	
国内売上高	42,158	59.6%	42,700	59.3%	542	1.3%	
海外売上高	28,595	40.4%	29,300	40.7%	705	2.5%	
地域別	アメリカ	19,336	27.3%	19,400	26.9%	64	0.3%
	アジア	6,568	9.3%	6,900	9.6%	332	5.1%
	その他	2,690	3.8%	3,000	4.2%	310	11.5%



営業利益減

売上総利益率の低下を見込む。

(単位:百万円)

	2025年3月期	2026年3月期(予)	前期比
営業利益	7,393	7,300	△ 93
営業利益率	10.4%	10.1%	△ 0.3 ポイント

	2025年3月期	2026年3月期(予)	前期比増減
売上総利益率	25.1%	24.6%	△ 0.5 ポイント
売上高販管費比率	14.7%	14.4%	△ 0.3 ポイント
売上高営業利益率	10.4%	10.1%	△ 0.3 ポイント

- 売上総利益率は、減価償却費や労務費の増加もあり、低下を見込む。

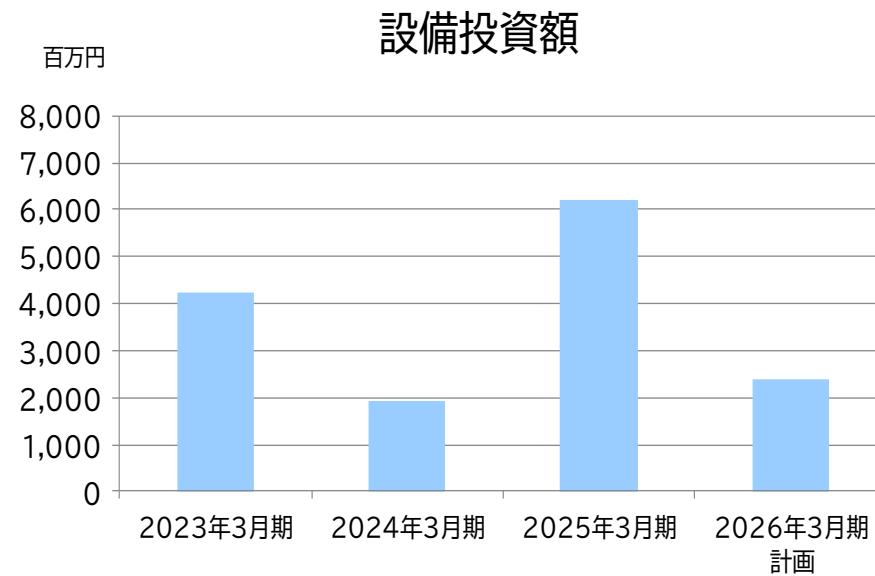


(単位:百万円)

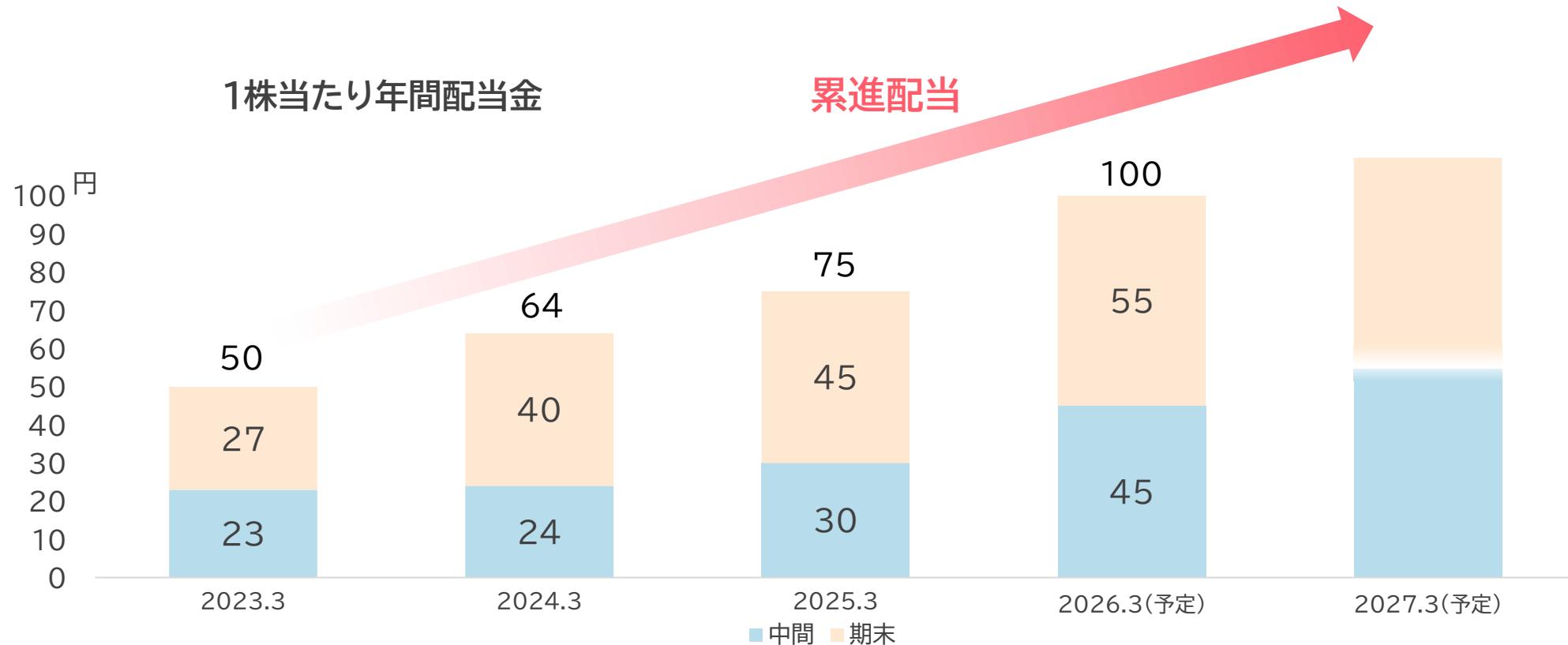
	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期 計画
設備費	4,213	1,913	6,218	2,400
主な用途	<ul style="list-style-type: none"> ・福井機械等 360 ・ニシハツ 2,500 ・アメリカ工場 20 ・ベトナム工場 70 ・その他 1,260 	<ul style="list-style-type: none"> ・福井機械等 440 ・ニシハツ 190 ・アメリカ工場 170 ・ベトナム工場 20 ・その他 1,090 	<ul style="list-style-type: none"> ・福井機械等 330 ・ニシハツ 4,290 ・アメリカ工場 60 ・ベトナム工場 20 ・その他 1,510 	<ul style="list-style-type: none"> ・福井機械等 800 ・ニシハツ 30 ・アメリカ工場 90 ・ベトナム工場 130 ・その他 1,350



2025年1月に操業を開始したニシハツ新本社工場



収益力の向上と財務体質の強化に努めながら、株主の皆様に対する利益の還元をより充実していくことが重要と認識し、累進配当の継続と機動的な自己株式の取得により、総還元性向40%を目安に成果配分を実施。



資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応の一つとして、株主の皆様への利益還元を一層充実させるとともに、資本効率の向上を図るため
2025年11月13日に**増配と自己株式の取得を発表**

◎配当予想の修正◎

	中間配当金	期末配当金
基 準 日	2025年9月30日	2026年3月31日
1 株 当 た り 配 当 金	45円 (35円→45円に 10円増配)	55円 (45円→55円に 10円増配)

◎自己株式の取得◎

取 得 対 象 株 式 の 種 類	当社普通株式社
取 得 す る 株 式 の 総 数	300,000株(上限)
株 式 の 取 得 価 額 の 総 額	1,000百万円(上限)
取 得 期 間	2025年11月17日～2026年5月13日

この資料には、2026年2月12日現在の将来に関する前提、見通し、計画に基づく予想が含まれています。

今後の経済変動、競合状況などにより、実際の業績が予測と大幅に異なる可能性があります。

あくまでも、情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。

投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願いいいたします。

当社のIRに関するお問い合わせ先

経営企画室 藤本・後藤
電話: 03-6861-1178
FAX: 03-6861-1185



參考資料



エンジン発電機、エンジン溶接機など野外パワーソースのトップメーカー

沿革:	1948年7月2日	「日本電機熔接機材株式会社」として設立
	1959年	我が国初の高速エンジン溶接機を開発、発売
	1961年	エンジン発電機の生産、販売開始
	1966年	防音型開発
	1983年	デンヨー株式会社に社名変更
	2000年	東証二部上場
	2022年	東証一部上場
		プライム市場に移行

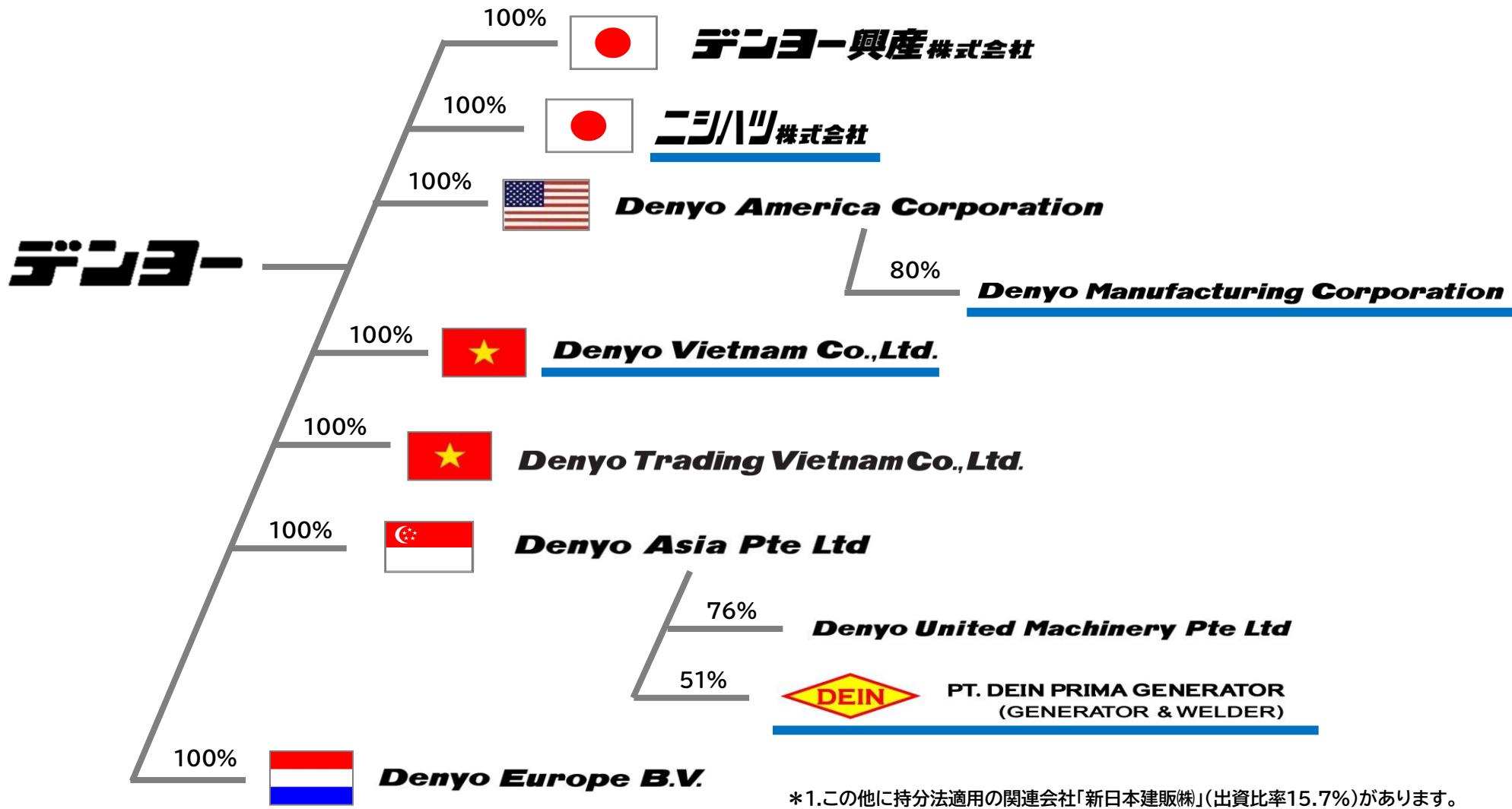
会社規模など(2025/3期・連結ベース) (単位:百万円)

売上高	70,753
うち海外売上高	28,595
経常利益	8,002
親会社株主に帰属する当期純利益	5,647
総資産	103,103
純資産	80,658
時価総額(3/31時点)	55,778
従業員数	1,377人



本社(日本橋堀留町)





*1.この他に持分法適用の関連会社「新日本建販株」(出資比率15.7%)があります。
2.下線の引いてある会社は製造会社となります。



野外パワーソースのパイオニアとして、エンジン発電機、溶接機、コンプレッサなどの製品を日本と世界150カ国以上の国と地域に提供

エンジン溶接機



特徴

- 屋外で使用されるエンジン駆動の溶接機

使用用途

- 配管工事、橋梁、パイプラインなど、鉄材の溶接に使用

エンジンコンプレッサ

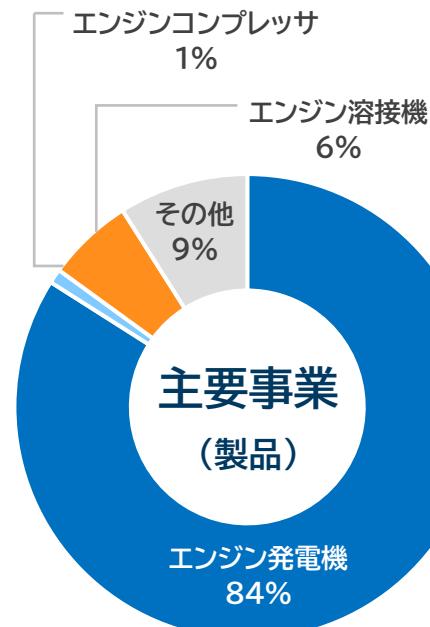


特徴

- 気体を圧縮して、圧縮空気を生み出す。
- 電源の確保がないため、あらゆる場所でエアーツールを使用することが可能

使用用途

- 削岩機、地盤改良用機械
- コンクリート吹付工などに使用



エンジン発電機



● 可搬形発電機

特徴

- トラックで運搬可能な発電機で、「移動可能な発電所」として、任意の場所で良質な電気を安定的に供給
- 1kVA～1100kVAまで幅広いラインナップ

使用用途

- 土木・建設・港湾など工事現場
- 屋外イベント
- TV中継車など多種多様な現場で使用

● 定置形発電機

特徴

- 建物の屋上や地下などに据付けられる常用・非常用発電機
- 主に停電時のバックアップ電源として使用される非常用発電機を製造・販売

使用用途

- 防災用発電機
デパートやホテルなど不特定多数の人々が集まる建築物に設置され、スプリンクラーなどの消防設備のバックアップ電源として使用
- 一般停電用発電機
オフィスビル、工場や病院などに設置され、電気機器のバックアップ電源として使用

商号	デンヨー株式会社 Denyo Co.,Ltd.
創立	1948年7月
従業員数(連結)	596名(1,408名)2024年3月末現在

2035年度長期ビジョン新設

「三者の得」を踏まえ、安全・安心な
パワーソースの提供を通じて、
豊かな社会造りに貢献

経営
理念

経営
ビジョン

2035年度長期ビジョン

サステナビリティをめぐる諸課題に取り組みつつ、
パワーソースの提供を通じて社会に貢献し、
持続可能な社会の実現と企業価値の向上に努める

中期経営計画 「Denyo2026」

豊かな社会に貢献する長期ビジョンの達成に向けた
成長への投資を実行し経営基盤づくりを推進する。

- 創造力と不断の技術革新を通じて、高品質
パワーソースのトップランナー(グローバル
No1ブランド)を目指す
- 社員一人ひとりが自らを高め、責任を持って
行動する活性化組織を目指す

- 財務
- 売上高1,000億円
 - 経常利益120億円
(経常利益率12%)
 - ROE8%
- 非財務
- 脱炭素製品売上33%
 - SCOPE1,2削減50%
 - 女性管理職比率15%

定性目標

サステナビリティ基本方針のもと、地球
環境の保全に努めるとともに誠実かつ
公正な事業活動を通じて、長期にわたり
社会から高い信頼を得る経営を実現

定量目標

- 売上高800億円
 - 経常利益率10%
 - ROE7%
- 総還元性向40%目安
 - 脱炭素製品売上高
30億円

事業戦略

中核分野

成長分野

挑戦分野

組織能力の強化

2035年度長期ビジョンの達成に向けて、成長投資と経営基盤を強化し、各分野での施策を着実に実行する



	市場	戦略の方向性
中核分野	国内建設関連市場 (可搬形発電機、溶接機、コンプレッサ)	トップブランド製品を中心に国内シェアを維持向上し、安定収益を確保する ✓ 新製品の開発・投入によりシェアアップ・顧客拡大を目指す ✓ 教育体制の充実による販売力の強化を図る ✓ 東日本、西日本の大型修理拠点を活用し更なるサービス体制の充実を図る
成長分野	国内定置形発電機市場 (非常用発電機)	非常用発電機を中心にシェア拡大を目指す ✓ 国内グループ3社による連携強化 ✓ 防災用発電機を製造・販売するニシハツ新本社工場の投資効果の最大化 ✓ メンテナンス収益の拡大
	海外市场	海外販売網・サービス網を充実・拡大し、Denyoブランドの浸透を図る ✓ 既存製品による市場深耕・開拓を進める ✓ 新規開発製品による既存市場での拡販・開拓を図る ✓ アジア、中近東等の販売店網・サービス網を強化し、新たなニーズに対応
挑戦分野	グローバルサウス 未開拓市場	成長が期待される未開拓地域への進出 ✓ 未開拓地域進出に向け調査・検討を実施 ✓ M&Aを含めた進出先・進出形態の模索
	新機軸製品 (水素混焼・専焼発電機、燃料電池式可搬形発電装置)	新機軸製品の社会実装を目指す ✓ 新機軸製品の開発継続・推進 ✓ 営業、サービス、生産体制の準備
組織能力の強化	・開発・生産 ・情報システム ・人財	安定的に生産できる体制を構築 生産性・効率性の向上とセキュリティを両立したシステム構築 多様な人財が活躍できる体制づくり

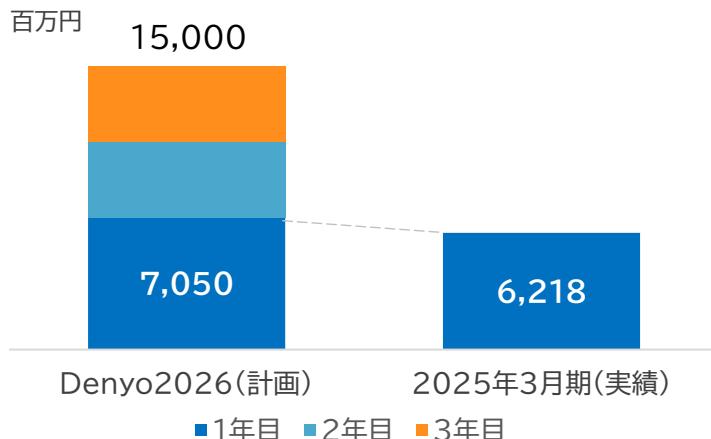
設備投資

持続的な成長の基盤づくりとして、国内拠点を中心に設備投資を実施

積極的な設備投資の実施

- ✓ 子会社 ニシハツ株式会社 新本社工場建設（2025年1月より稼働開始）
- ✓ 西日本サービス拠点建設（2025年4月より稼働開始）
- ✓ 福井工場の生産能力増強・合理化投資など（継続中）
- ✓ 情報システムへの投資（継続中）

設備投資の計画と実績

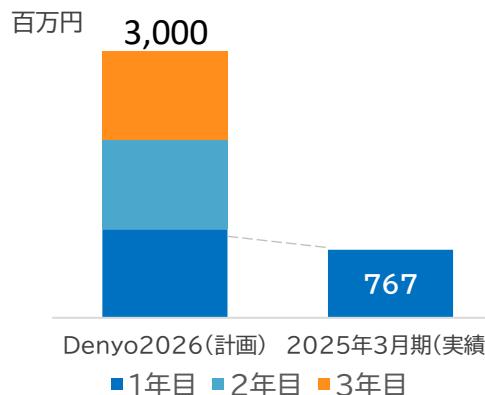


研究開発投資 *

新技术を活用した製品や市場ニーズに応える製品、新機軸製品の研究開発を進める

主な取り組み状況

研究開発投資の計画と実績



燃料電池式
可搬形発電装置



背負式バッテリ
溶接機 WELZACK

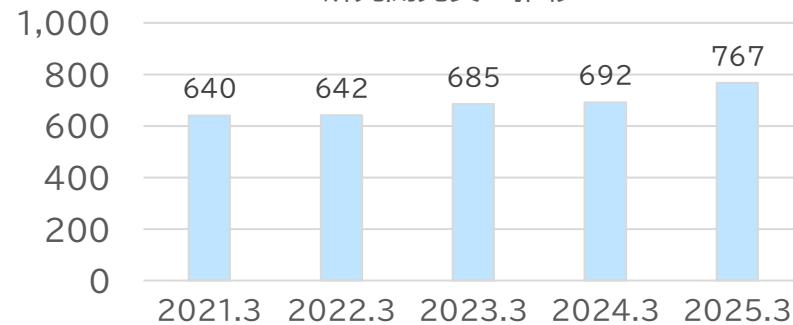


水素専焼発電機



水素混焼発電機

研究開発費の推移



*補助金などによる相殺の影響を除く

財務目標

- ① 売上高計画 **800億円**
- ② 経常利益 **80億円 (10.0%)**
- ③ ROE **7.0%**
- ④ 総還元性向 **40%目安**

非財務目標

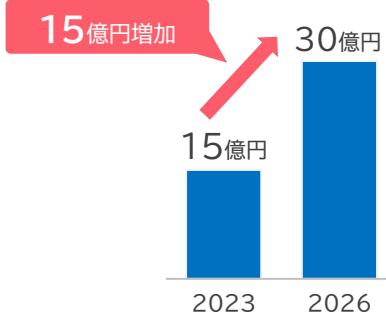
- ① 脱炭素製品売上高 **30億円**
- ② SCOPE1,2(長期目標) **50%削減※1**
- ③ 女性管理職比率(長期目標) **15%※2**

※1 2035年度長期ビジョン目標、国内グループ会社対象、売上高原単位
 ※2 2035年度長期ビジョン目標、デンヨー単体対象

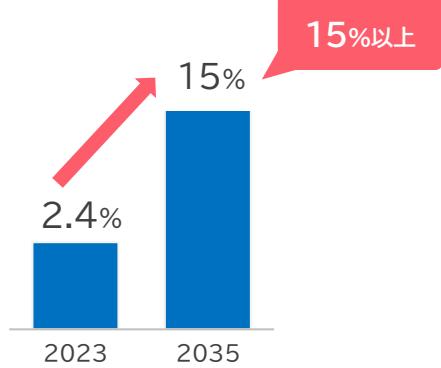
単位:百万円

	2023実績	中期経営計画	
		2026	増減額・率
連結売上高	73,140	80,000	6,860
経常利益	7,378	8,000	622
ROE	7.3%	7.0%	-
総還元性向	25.9%	40.0%	14.1%

脱炭素製品の連結売上



女性管理職比率



デンヨーは、地球環境問題を経営の重要な課題の一つとして位置付け、カーボンニュートラルへ向けた取り組みを積極的に推進してまいります。地球温暖化防止に向けたCO2排出量の削減や大気汚染防止のための一つとして、燃料電池をはじめとする水素社会への取り組みが有効であると考えています。



コマツ 小山工場に導入した水素混焼発電機

水素混焼発電機

- 販売を開始し、初号機をコマツ小山工場に納品
- 燃料に水素を最大 50% 混合した発電が可能
- 軽油のみを燃料とする場合と比較してCO2の発生を最大50%削減
- コマツと株式会社日立製作所の技術供与により製品化に成功
- 水素サプライチェーンを構築するためのキープロダクトとして拡販

想定用途：副生水素を活用した自家消費、停電対策用電源 等



水素専焼発電機

- 水素のみを燃料としCO2を排出しない
- ボリュームゾーンである45kVAクラスの開発から着手
- 2025年以降の市場投入を目指す

想定用途：土木・建設・港湾工事、テレビ中継や各種イベント、レジャー 等



量産型 燃料電池式可搬形発電装置 (7kVA)

- 量産型の開発着手
- FCスタック、エアコンプレッサ、水素循環ポンプなどパッケージ化
- 実証試験機で得られた知見をもとに、小型軽量化を目指す
想定用途:土木・建設工事、災害発生時の生活電源、テレビ中継や各種イベント等



燃料電池式可搬形発電装置 (3kVA)

- 帝人が展開するIntelligent Energy Limited製の燃料電池モジュール(*)を用いて3kVA級の水素燃料電池発電装置を開発

(*)水素燃料電池発電装置のコアとなる部品。外部から取り込んだ水素と酸素を化学反応させて電気を作り出す。

想定用途:土木・建設・港湾工事、災害現場、野外イベント 等

モバイルバッテリー搭載LED投光機



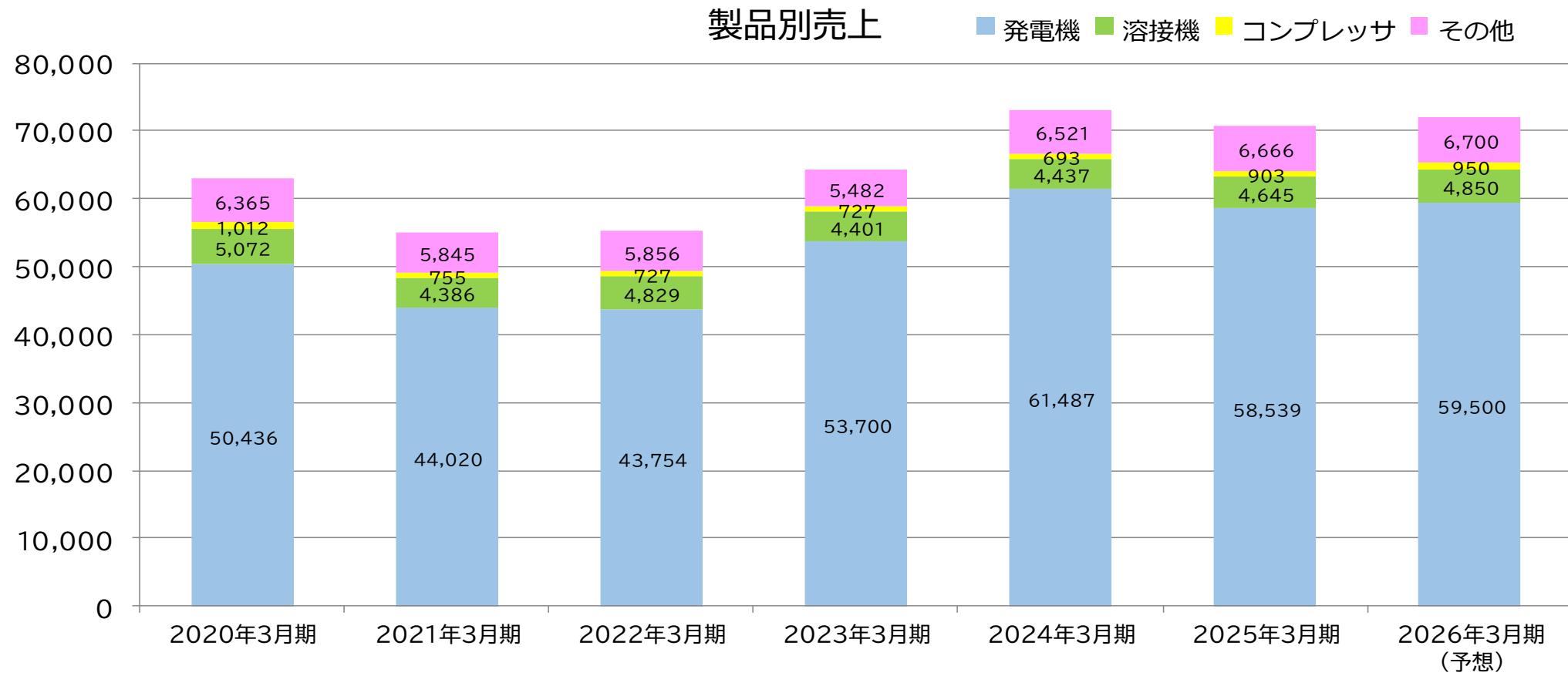
想定用途:夜間工事、イベント 等

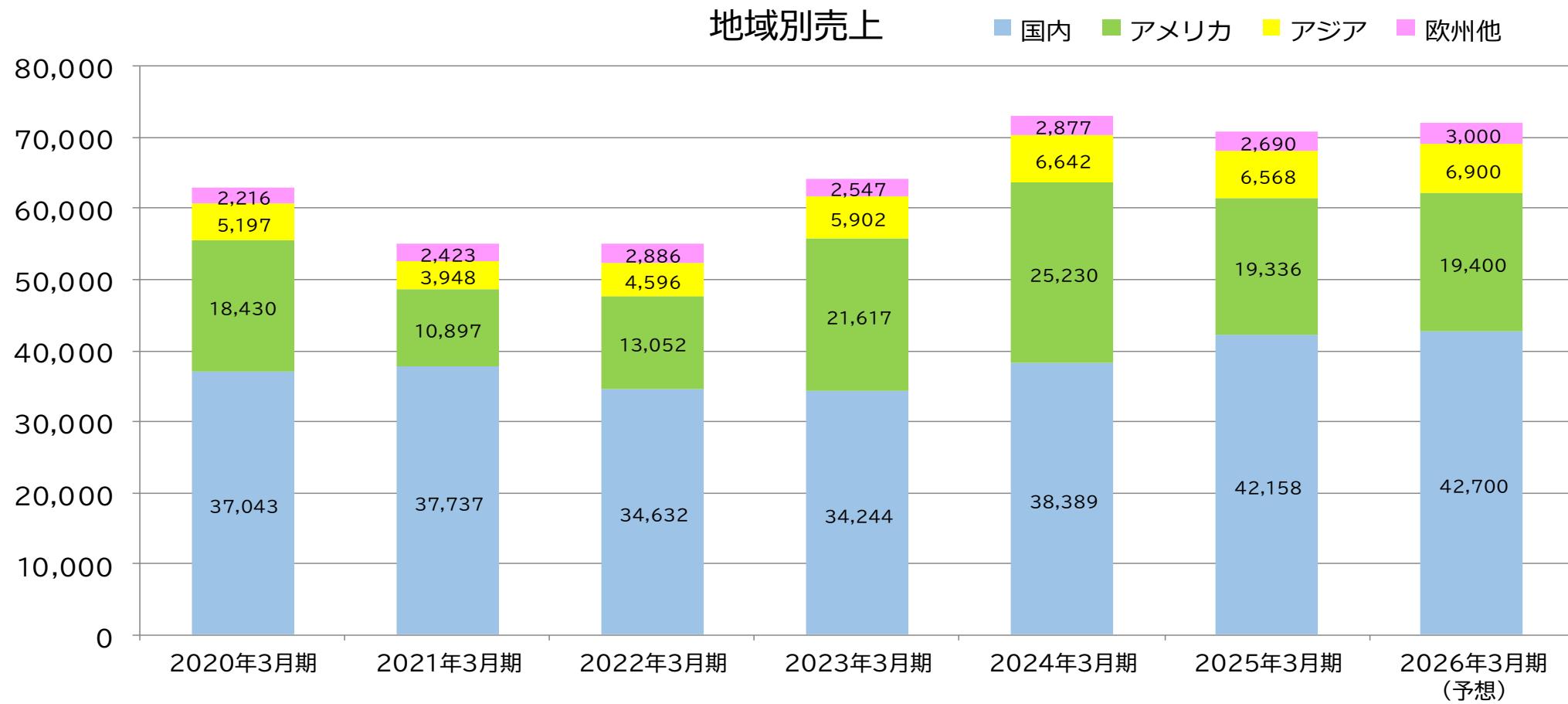
- 騒音やCO₂を排出しない
- 着脱できるカートリッジ式のリチウムイオンバッテリを使用
- 長時間運転可能

背負式バッテリ溶接機 WELZACK



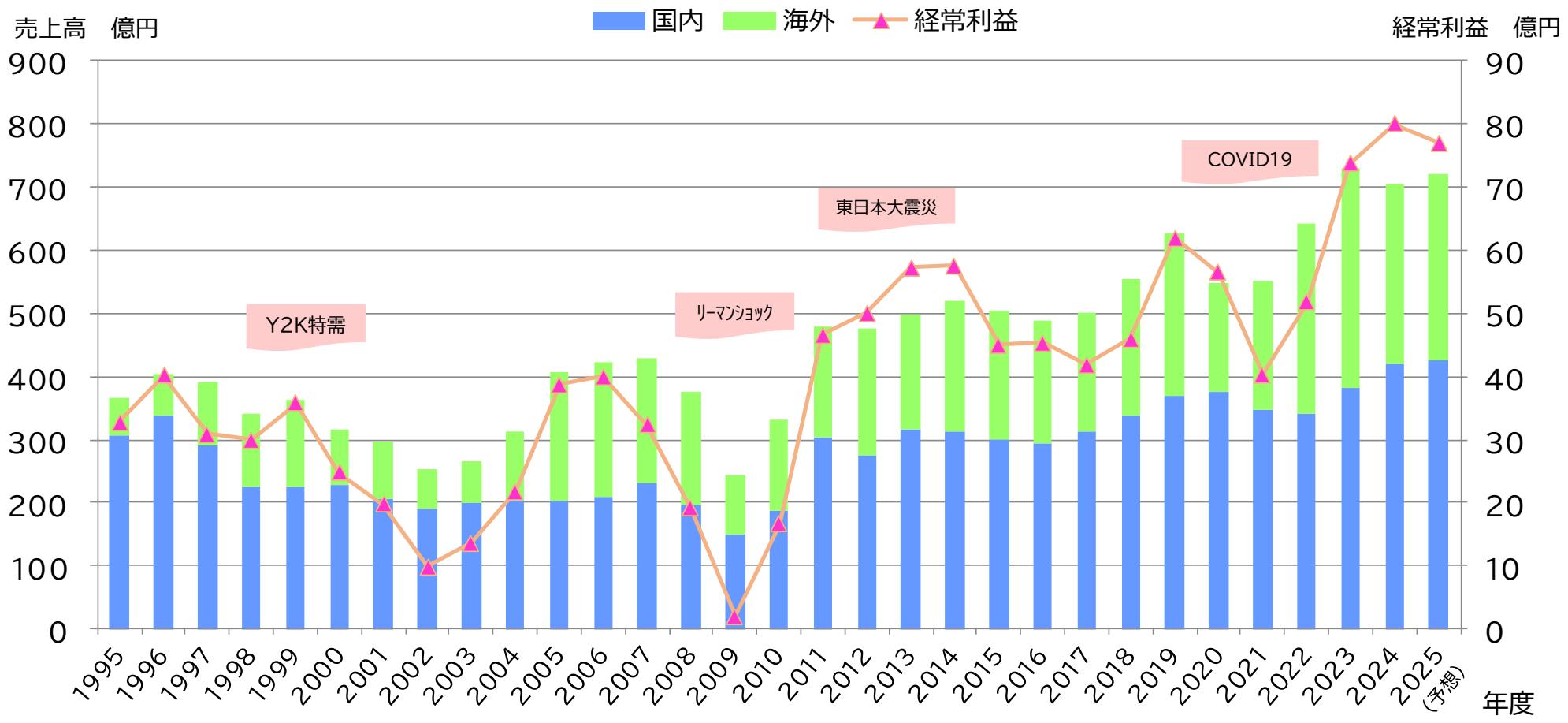
想定用途:階段や狭小部分での補修作業 等





過去30年間の業績の推移

Denyo



壁を越える、原動力。

Denyo